

全国ハンセン病協議会総会を

鹿屋で12年ぶりに開催

国立療養所所在地の代表がハンセン病問題の真の解決に向けた支援を決議



①



②



④

- ①地元選出国會議員を交えた情報交換会
- ②鹿屋農業高校和太鼓部「魂（こころ）」による演奏披露
- ③園長や自治会役員との懇談
- ④納骨堂前で献花

7月12日、国立療養所所在地の首長、議会議長など約50人が出席して、「平成24年度全国ハンセン病療養所所在市町連絡協議会総会」が12年ぶりに鹿屋市で開催されました。

総会では、平成23年の事業報告等や、平成24年度の事業計画等が承認されたほか、東日本大震災を受け、構成市町間で災害時においても相互支援を行うことに合意しました。

【問い合わせ】市保健相談センター ☎0994-41-2110

全国ハンセン病療養所所在市町連絡協議会は、昭和49年に発足し、国立のハンセン病療養所の所在する12市町で構成され、共通する課題について協議し、その解決を図るとともに、所在市町の連携、協力及び相互支援を行うことを目的としています。

総会では、療養所入所者、療養所退所者、そして家族の人権、尊厳、名誉を回復させることが大きな課題であることから、療養体制の充実をはじめとする福祉の増進により、地域の中で孤立することなく、穏やかに安心して暮らすことができるよう取り組むことを確認し、高齢化が進む入所者が求める療養体制の充実等を国に対して要請することを決議しました。

協議終了後には、衆議院議員の森山裕議員と網屋信介議員を交え、情報交換を行い、両議員に国への要請活動に対する支援を求めました。

総会後には、鹿屋農業高等学校和太鼓部「魂（こころ）」による演奏が披露されたほか、パリ・オートクチュールコレクションで世界デビューしたバラの焼酎「薔薇の贈りもの」や世界経済年次フォーラム「ダボス会議」で愛飲された「ごぼう茶」、「かのやかんパチ」、「鹿児島黒牛きもつき牛」、「ナミクダヒゲエビ」、「紅はるか」など鹿屋市の特産品が紹介されました。

また、7月13日には、星塚敬愛園を訪問し、納骨堂前で献花をし故人を偲びました。その後、施設を見学するとともに、園長や自治会役員と懇談をし、国立療養所の現状について認識を深めました。